

## 2017年の年の瀬に…

仲嶺 真弓

2017年の年の瀬となりました。毎年、この時期になると今年の時事問題ニュースを振り返るようにしています。浅い知識かもしれませんが、広い世の中の情勢を見渡しながら大人の私ができること、そして保育園でできることは何かを考える視点を私自身もっていたいと思うからです。今年は、どのニュースを振り返ってもはっきりしないことが多すぎて、この国のこれからも、この地球の未来もどこに向かおうとしているのか益々迷宮状態になっていると感じずにはいられませんでした。

2017年の今年は、保育園にも弾道ミサイル発射時の緊急避難を考えるよう国からの通達がきたことに何とも言えない違和感を隠し切れませんでした。けれど場所を変えて考えれば、同じ日本国内の沖縄では、私のこの違和感は日常茶飯事なことで、沖縄で暮らす人々に思いを馳せ、日々の生活の中で計り知れない恐怖を毎日強いられているのだと思うと、胸が張り裂けそうになりました。当たり前のように思っている“平和”が当たり前ではなくなってきつつある今、大人の私たちに何ができるのか…。軍事だけに焦点をあて、守りに入ることしか方法がないのだろうか…。被爆国日本だからこそできることがあるのではないのか…。戦後72年、これからの時代を担う子どもたちに何を残せるのか。今を担っている大人の私たち一人一人が、この問題から目をそらさず真摯に向き合わなければいけないと改めて思い直した年の瀬でした。

### ＝ 職員の勤務異動お知らせ ＝

姉妹園のアトム共同保育園の日祝日保育利用者の増加に伴い、調理と保育補助も可能な職員が急ぎよ必要となり、年度途中ではありますが12月から異動となりました。

4月から「つばさ」勤務になり、子どもの笑顔に支えられました。  
12月から「アトム」勤務になります。これからもよろしくお願ひします。  
根来 美智代

### ＝ 5歳児就学を前に、大人の私たちが見通しを持つために毎年企画しているので紹介します ＝

そうぐみの懇談会に小学校の先生が来てくれました 3, 4, 5歳児主任 大野京子

11月25日は5歳児そうぐみの懇談会でした。この日の内容は、小学校の先生を懇談会の場に招き、保護者が小学校に向けてわからないことや心配なことなどを、直接先生に聞いて答えてもらうというものです。毎年5歳児の後半にはこのような懇談会をしたいと思い、来てもらえる先生を職員で探しています。今回来ていただいた先生は、前川先生（つばさ職員の前川良太保育士の親戚の方）でした。前川先生はとても気さくな雰囲気の方で、保護者のひとつひとつの質問に丁寧に答え、一緒に話し合ってくれました。少し内容を紹介しますと…

- 文字の読書きに関して→自分の名前が読めて書けるのが望ましいが、できなくても文字を書く上でのポイントは筆圧と長い線を書けるかどうかなので、最初は線をなぞることから始める。
- 入学してから子どもが一番困ることは、和式トイレの使い方がわからないことや、男の子がお尻を出さずにズボンをずらして排泄できないことなので練習する機会があれば良い。だが小学校にいても最初は先生がついて教えてくれる。

など学校での授業や生活に関しての話や、友達や保護者、知らない人の環境の中で、子どもが友達関係で困っているときはどんな心持ちでいたらよいか？いじめって何をいじめとするんだろう？という話しにもなりました。毎日送迎に来る保育園とは違い、小学校では子どもの様子が見えにくくなっていく中困ることや心配なことも出てきます。そんな時は担任の先生に相談したら良い。小学校に電話するのは案外敷居が高く感じる人もいるかもしれないが、気になることは聞くと、先生もそのことについて意識できると思う。噂話に流されなない、飲まれないことが大切など、先生の思いを話してくれました。

直接先生に話しを聞くことで小学校のことや先生の気持ちが変わり、保護者も小学校に対する心配が和らいだり、見通しを持ってたことがあったのではと思いました。私も学ぶことや発見があり話せてよかったです。今後このような懇談会を続けていきたいと思いました。